



■ 卒業論文の書き方

早稲田大学
政治経済学部
須賀晃一

■ 研究の流れ・論文の流れをつくる

- テーマを選んだ動機・問題意識を鮮明にする。
- 自分なりの結論・主張を明確にする。
とりあえずの結論は何か？
結論の正しさはどうすれば主張できるか？
- 結論を導くための手法・技法(モデル)を決める。
- 資料を収集し, 必要な分析を加える。
- 各章・各節の暫定的結論の関連を考える。
- 論文全体の結論を導く。
全体の連関を示すフローチャートの作成

■ 研究の流れ

- 既存の理論・結論
- 現実の問題(事例)
- あなたなりの疑問・反発

- 反証例の探索
- 調査・検証・証明
- 反例・命題・主張
- 論文の作成
 - 自己の主張の正しさを表現する

■ 論文の流れ

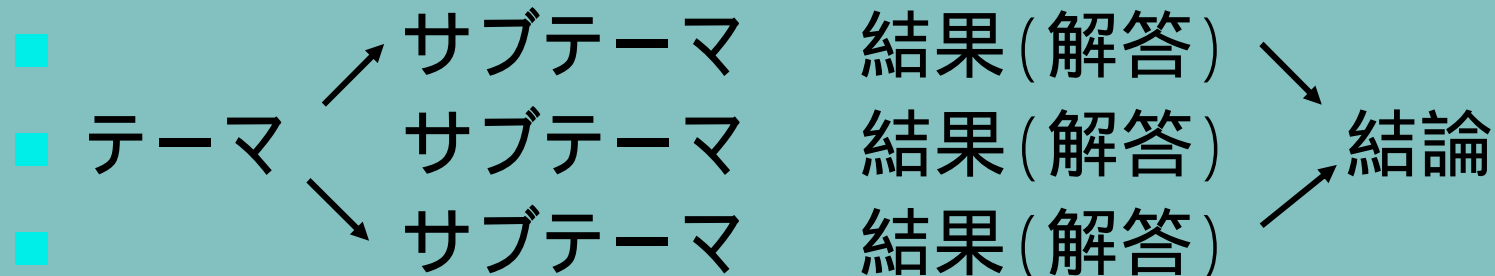
- 序論：問題意識，全体構成
 - 自身の結論の意義
 - これまでの成果・帰結との比較
- 本論：分析方法（理論モデル）
 - 数理モデル・計量モデル・言語モデル
 - 前提条件・仮定
 - 論理展開 調査・検証・証明
 - 反例・命題・主張
- 結論：研究成果のまとめ

卒業論文の作成

- 研究は論文作成に先行する。
- 自分の結論が見えないまま論文執筆を始めるとすぐに困難に直面する。
- まず、一応の研究を終わらせる。
- 個別問題のそれぞれに自分なりの解答を与える。
- その後、論文作成の作業に入る。

全体構成の練り方

- テーマ全体の問題意識を明確にする。
 - なぜ自分の設定したテーマが重要なのか。
 - なぜいまそのテーマを扱うのか。
- 全体の結論を明確にする。
 - 自分の導いた結論は何か。
 - 結論の一般性はどの程度か。
- 最適な論理展開の方法を考える。



■ 章の立て方

- 個別問題群 (サブテーマ群) をグルーピングする。 **キーワード集を作ろう!**
- 各グループの問題を定式化し結果を示す。
- 問題から結果までの論理展開を明示する。
- 各グループを1つの章として章題をつける。
- 各章をいくつかの節に分割する。
- 必要があれば各節をさらにいくつかの項に分割する。

■ チェック！

- 結論は明確か？
- 結論は具体的か？
- 結論と問題意識は直結しているか？
- 結論と本論は対応しているか？
- 他人の結論と同じか、違うか？

■ まとまりのある卒論のために

- キーワード集を作ろう！
 - 卒論全体のキーワード・各章のキーワード
- キーワードのサイズに注意
 - 公的年金，企業年金，環境問題などはダメ
 - 公的年金における効率性と公平性はOK
- テーマを適切に表現するキーワード
- 結論を端的に表現するコピー

脚注の付け方

■ 引用注

- 本文中に他人の文言を利用することで、論旨を補強したり、説得力を上げることができる。論文である限り、そのようなときにはどこから引用したかを絶対に明示しなければならない。引用した文言は「」で囲み、引用箇所注番号を記し、脚注(あるいは論文末の後注)に引用文献を明記する。

■ 出所注

- 本文中で利用した各種資料の出所は、学術的論文である限り明示しなければならない。原則的には、それらの資料を記載した文章の末尾に注番号を記し、脚注(あるいは論文末の後注)に出所文献等を明記する。

■ 説明注

- 本文中で、論旨に直接関係はないが、内容の理解を補強させるためにつける。また、論旨がいたずらに複雑になるのを避けるためにも適宜利用される。

■ 本文

「・・・が成立する」⁽³⁾と主張される。これに関しては、ハロッドの効用概念との対比が有用である⁽⁴⁾。

■ 脚注

(3) 塩野谷祐一『価値理念の構造 - 効用対権利』東洋経済新報社, 1984年, pp.146-147.

(4) R・F・ハロッド(清水幾太郎訳)『社会科学の方法』岩波書店, 1969年, p.25を参照.

■ 文献目録

塩野谷祐一『価値理念の構造 - 効用対権利』東洋経済新報社, 1984年.

R・F・ハロッド(清水幾太郎訳)『社会科学の方法』岩波書店, 1969年.

略式の表記法

■ 脚注

(3) 塩野谷祐一 (1984b) , pp.146-147 .

(4) R・F・ハロッド (1969a) , p.25を参照 .

■ 文献目録

塩野谷祐一 (1984b) 『価値理念の構造 - 効用
対権利』東洋経済新報社

R・F・ハロッド (1969a) (清水幾太郎訳) 『社会
科学の方法』岩波書店